

ふくおか経済

月刊地域経済情報誌 2004
September

9
Vol.193

平成16年9月1日発行
第193号 (毎月1日発行)
平成3年1月18日 第3種郵便物認可

立話

情報安全管理の動きが本格化

「個人情報情報の漏洩が相次ぎ、大きな社会問題となる中、企業、個人の情報セキュリティに関するニーズは今後ますます大きくなっていく」。清水英明日本情報安全管理協会理事(有)ジャパnセキュリティ社長)は、情報管理の重要性を説く。

NPO法人・日本情報安全管理協会(東京都、略称・JILCOM)は二〇〇二年十二月に発足。企業、個人の住宅での室内盗聴や電話盗聴、パソコンデータの盗聴やハッキングなどの被害を防ぐために、情報セキュリティに関する研究・開発、セミナーによる啓発活動、専門技術者の育成などを柱に活動を進めている。さらに、大手引越業者との提携により、盗聴調査が引越サービスのメニューに加わ

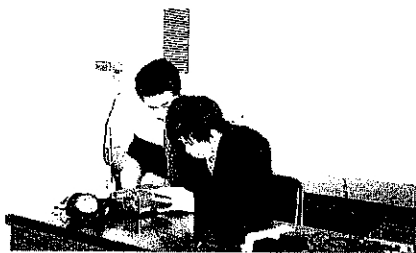


清水 英明

日本情報安全管理協会理事・九州地区情報安全対策委員長

った。「これまでの『水と安全はタダ』という神話はもろくも崩れ、最近は『安全と安心』を買う時代になってきている。しかし、わが国の情報管理に対する認識は、欧米諸国よりも遅れており、九州地区はさらに遅れているのが現状」と指摘する。

この七月には九州地区で初めて通信傍受(盗聴防止)対策技士の資格認定試験を実施、今後は定期化し、専門技術者の育成に努めるなど動きが本格化してきた。「企業、特にサービス業では危機感をもって情報管理に取り組んでほしい。それが他社との差別化につながり、結果、ユーザーからの信頼へとつながる」と危機意識の必要性を訴える。



7月に実施された通信傍受対策技士の資格認定試験